

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	スコットランド・ゲール語とスコッツ語による詩の教育的効果に関する研究				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子

講演題目	スコットランド・ゲール語とスコッツ語による詩の教育的効果
------	------------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望

1. 目的

本研究は、スコットランドの地域言語であるスコットランド・ゲール語とスコッツ語の学校教育がどのように実施されているのか調査し、特にこれらの言語の詩作品を題材に用いた教授法に着目して、その教育的効果を分析するものである。その成果を論文として発表すると共に、本学部の開講科目の題材として用いる。

2. 成果

スコットランドの学校教育では、地域言語による創作力と表現力を養うために、文学作品の鑑賞だけでなく学習者がエッセイや詩を作成する演習が実施されている。特に詩の場合は、音韻の特徴や詩形を把握することが求められるため、言語能力と文学的な技法の習得に高い教育的効果が期待できる。更に、地域言語への関心を高め、創作意欲の促進を図るために、児童・生徒の作品を対象とする文芸コンクールも定期的に開催されている。地域言語の使用状況に関する国勢調査によると、スコットランド住民に占める話者数は減少傾向にあるものの、学校教育で体系的に学習する学齢人口を反映して、若年層の話者数は増加している。学齢に達する前から、日常生活で地域言語の伝承歌謡やアニメに触れる機会が多いが、学校教育で能動的に創作する能力を身につけることで、言語能力の向上に加えて地域言語に対する肯定的な態度も醸成される。以上のような教育的効果について論文としてまとめ、所属学会の紀要に投稿する予定である。また、本学部で担当する授業（特に「比較文化入門II」）で、地域言語の習得や使用の増大、スコットランド議会・行政府の言語政策、教育現場の現状などについて上記の教育的効果と共に講義した。

3. 今後の展望

前年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染防止対策のため、学外研修を実施できなかった。次年度以降に現地調査を行い、スコットランド政府の新第一首相のもとで実施される言語政策が教育現場にどのような影響を及ぼしているか分析することを目指す。